Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-01

<雜録>海老原學士ノ批評ノ批判

高島, 佐一郎

(Citation)
經濟學商業學國民經濟雜誌,20(6):1011-1021

(Issue Date)
1916-06

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052544

海老原學士ノ批評ノ批判

商學士　高島佐一郎

一

同學ノ畏友商學士海老原竹之助君ニハ、コタビ遙カニ孟買ヨリ、一書「印度ノ幣制ニ關スル高島學士ノ所說ニ就テ」ヲ、本誌五月號ニ寄セテ、――今マ假リニ、右ノ稿中、直接ニ予ノ所說ヲ消極的ニ評隲セラレタ部分ト、學士自ラガ其レニ關聯シテ積極的ニ自說ヲ立セラレタ部分トヲ、便宜上別カチテ觀念スルナラバ――(一)予ガ本誌大正四年十二月號上ニ於テセル、高垣學士ニ對スル答辯「謹デ高垣學士ニ答フ」ノ中ニ、表ハレタ一部分(同上文第四項ニ該當シ、一頁半ニ亙タレル一節)ニ關シ、若干ノ疑問ヲ公ケニセラレ、進ンデ(二)最近ニ於ケル印度幣制觀ヲ論ゼラレタ。Cogito ergo sum 寔トニ價値ナキ吾ガ一頁半大ノ一小文ガ、上述(一)ノ如ク會マ學士ノ cogito ヲ惹起スルノ緣トナリ、ソコニ(二)ニ包含セラレタ名論タル、學士ノ立派ナ ergo sum ガ、立セラレタモノトモ看ルナラバ、其ノ昔シ「ワレ考フ、故ニ吾レアリ」ト喝破シタリシデカルトナラヌ、ワガ海老原學士ノ積極的業績ニ對シテハ、一讀者トシテ深ク歡ビ、且ツ謝スル所デアラネバナラナイ。然ルニ直接予ノ所說ニ關スル(一)ニ就テノ、批判ニ對シテハ、玆ニ强調シテ以テ、謬ラレタル自家ノ立場ヲ辯明スル所ガナクテハナラナイノデアル。然カシ學士ノ所論ハ未ダ、同號ヲ以テ盡サレタノデハナク、恐ラクハ此ノ拙稿ト相並ンデ續論セラレル筈デアルカラ、正確ニ言ハフナラバ、冒頭ノ一文章ハ、須

ラク「……ヲ論ゼラレツ、アリ」ト改ムルノ勝レルニ如クハアルマイ。惟フニ吾人ガ親シク膝ヲ交ヘテ論爭スル場合ニ於テスラ、先ヅ他ノ言ハント欲スル所ヲ傾聽シ了レルノチ始メテ徐ロニ、其ノ所論ニ關スル當否ノ我見ヲ吐クノヲ、常法トシ且ツ效果アリトスルデアラウ。況ンヤ本誌如キノ、純學術雜誌上ニ於テセラレタル、學的批評ノ當否ヲアゲツラフ場合ニ於テヲヤデアル。而カモナホ、急遽トシテ筆ヲ本稿ニ染メ、且ツ之ヲ公ケニセザルヲ得サル所以ノモノハ、二ツノ事由ニ基ヅク。其ノ一ハ冒頭ニ假リニ分類シオケル(一)ノ部分ニ關シテ、學士ノ批評對象トナリシモノガ、象ノ鼻トイフガ如キ、本來批評セラルベキ全體ノ、一部分ニ過ギザリシガ爲メ、根據精ハシカラズ、勢ヒ明敏透徹ノ批判スラ、遂ニ憶測ニ墮シ、判斷錯誤ニ陷リ、予ヲシテ速カニ其ノ批評對象ノ失當ナルヲ指摘シテ、對質療法ノ急ニ赴カシメタルコトデアリ。其ノ二ハ、予ニ於テ一歩ヲ讓リテ、假リニ學士ノ態度ニ對質療法ノ必要ヲ認メズトスルモ、讀者ガ已ニ知悉シ得タリシヤウニ、繫爭ノ二論點ハ既ニ五月號ニ論究サレテヲリ、此ノ後チ、學士ノ續論ヲ待ツトスルモ、ソレハ(二)ノ部類ニ屬スベキ、學士獨立ノ研究タラザルヲ得ザルコトガ、推論セラルベキ以上ハ、今マニ於テ、學士ガ指摘セラレタ、ワガ probable ナ弱點ヲ、一々ニ拾ヒ上ゲ、ソガ誤謬又ハ不當ニアラズトシテ、一々、對症療法ヲ、學士ノ箇別的論據ニ向ツテ施コシ行クモ、敢テ失當デハナイト信ズルカラデアル。果シテ然ラバ、何ヲ根據トシテ、之ヲ言フカ。

二

繫爭ノ對象トナツタ拙稿ハ、單ニ高垣氏ノ批評ニ對スル一答辯タルニ過ギナイ。斯カル答辯中ニ

其ノ著作中ニアル、關係所說ノ全部ヲ、追一ニ引用シテ、貴重ナル雜誌ノ紙面ヲ煩ハス愚者ハ、世ニアリ得マイ。サレバ之レノミヲ唯一ノ典據トシテ、論爭ヲ進メルコトハ、宛ガラ木ニ緣ツテ魚ヲ捕フルノ憾ミナキヲ得ナイ。是レ、谿谷高山ニ珍奇ナル植物ヲ尋ヌルモ、最近ノ植物學上ノ地位ニ對シテ盲目ナル、偏狹ナ植物學者ノ發見ニ類スルモノデハアルマイカ。前人未發ノ植物ナリト思ヒ込ンデ、之ヲ公表スルト、豈ニ計ラン、ソレハ已ニ物ノ本ニ記述サレテヲル類屬タルニ過ギザリシコトハ、吾人ノ時ニ聞ク所デアル。サレバ他人ノ所說ニ懷疑シテ、之ヲ否定シタル上、更ニ其ノ上ニ積極的ニ自家議論ヲ築カントナラバ、須ラク其ノ原本ニ載セル所ヲ正讀正解シテ、先ヅ疑ヒ次イデ破壞スベキモノデハナイカ。而シテ之ガ學問上ノ論爭法 scientific polemics ノ要諦デアルト思フ。若シ此ノ用意ナクンバ、折角ノ批評ノ上部工事、未ダ成ヲ告ゲザルニ、一陣ノ風ニ自ラ倒壞セザルヲ得ナイデアラウ。然ルニ予ノ譯著「金融ノ原理」ノ、第八章第五節「金爲替本位」及ビ同章第六節「金爲替本位ト跛行本位」ニハ、皮肉ニモ、實質上、海老原學士ガ論ゼラレタ主要記述ハ、已ニ全部盡サレテキル。殊ニ學士ガ特ニ、予ノ「參考トナルデアラウ」トイフ、說明付キデ引用セラレタ、コナント氏ノ文句スラ、其レト同心異體ナルコナント氏ノ所說ヲ、引イテアル。是ニ於テカ、予ハ再ビ學士ガ一頁內外ノ拙論ヲ唯一ノ目ノ敵キトシ、且ツ自ラ告白セラレテキル如クニ、「實ヲ云ヘバ予ハ未ダ高島氏ノ著述ヲ見ズ」シテ、辯難ノ苛筆ヲ役セラレテキルガ、斯ノ如キハ、ルーランドヲ叱咤シタリケル、リーサー博士ナラナクモ、世人ガ忠實ナル學的論爭トシテ許容セヌ所デアラウト、强調セザルヲ得ナイ。學士ニシテ若シ、其ノ雄筆ヲ染メル前ニ、拙譯著ヲ一見スルノ勞ヲ吝マレザリ

シナラバ、カノ一雄篇ハ單ニ學士ガ、自家獨立ノ研究ヲ發表セラレタモノトナリ、非議ノ筆ヲ弄サル、ノ必要モナク、モット積極的ニ力强ク主張セラレ、且ツ冗漫ヲ避ケ得ラレタデアラウ。然カシ是レハ言フモ詮ナシ、予ハ予ノ知識的良心ノ、抑ヘント欲シテ抑ヘ難キ衝キ動カシニヨツテ、加ヘラレタル不當ノ辯難ヲ排除シ、學士竝ニ讀者ノ惑ヒヲ解カウ。然ラバ則チ、學士ノ非議全體ハ、論證ノ過程ニ於テ、縱ヒ其ノ或ルモノガ、殘存セラレタトスルモ仍ホ、「スコラ」派ノ學者ガ克ク陷ツタ、空ナル言語爭ヒ logomachy ノ、以上ニハ出ヅル能ハザルコトガ、明瞭ニナルト信ズル。

三

先ヅ學士ハ、「精巧ナル仕掛ケヲ用ヰテ爲替關係ヲ調節スル」ト云ヘル、概念的記述ヲヒドク氣ニセラレテ、「曖昧ナル文字ヲ用フル」ト難ジ、「印度政府ハ倫敦向金貨爲替ヲ賣出シテ」云々ト云フノ簡明ナルニ如クハアルマイト論ゼラレテヰルガ、其レ丈ケヲ聞ケバ、至極尤モニ響クケレドモ、此ノ指彈ノ出デタ所以ハ、繫爭ノ二標準ナルモノガ如何ナル箇所ニ用ヰラレ、右ノ記述ガ如何ナル場合ニ用ヰラレタカヲ、知ラレザルコトヨリ、惹起サレタ判斷錯誤デアル。加之、拙譯著第八章第五節「金爲替本位」（一三二―一四〇頁）中ニハ、學士ガ爾カ爾カ云フノ簡明ナルニ如カズト云ツテ、指示サレタ、上述ノ文句ハ、一再ナラズ、其ノ儘マ明記サレテアル。今マ之ヲ略說スレバ、金爲替本位ニアツテ、其ノ定位貨幣ノ對外價値ヲ、平衡狀態ニ維持セシムルノ策トシテハ、（一）爲替相場上內國通貨ノ騰貴ヲシテ、金輸入點以上タラシメズ、同時ニ（二）爲替相場上、內國通貨ノ低落ヲシテ金輸出點以下タラシメザルコトヲ要スト論ジ。（一）ノ目的ヲ達成スルニハ、倫敦ニ於テ金ヲ提供ス

ル者ニ對シテ、相當ナル印度宛手形 council drafts on India ヲ交付シ、印度ニ於テ之ガ額面相當ノ內國通貨ヲ交付スルヲ以テ足リ、次ニ(二)ノ爲メニスル施設ハ、印度ニ於ケル內國通貨ノ提出者ニ對シ、一定金額ヨリ高カラザル相場ニヨリ、所要ノ倫敦宛手形 sterling drafts on London ヲ交付スルコトヨリ成立スルコトヲ、詳述シタノデアッタ。加之、(二)ノ種類ノ手形ノ代リ金トシテ收納セラレタル通貨ハ、(一)ノ種類ノ手形ノ代リ金トシテ、ソガ印度ニ於テ呈示セラルヽマデハ、一般流通界ニ入リ來ラズ、カクテ人爲的ニ流通々貨ノ數量ガ調節セラルヽニヨリ、印度ノ通貨狀態ハ始メテ略ボ、カノ金自由鑄造及ビ金自由輸出ガ認メラレル、金本位ニ於ケル通貨狀態ト、同一ナラシメラルルモノデアルト論ジタノデアッタ。若シ夫レ印度幣制ヲ詳論スル如キハ、既ニ一般ノ金融論ノ範圍ヲ超脫スルモノタラザルヲ得ズシテ之ガ詳論ハ、キーンス氏「印度ノ通貨及ビ金融」ヲ、主モナ材料トシテ起稿シタル、「印度幣制運用ノ緣トシテ列國幣制上ノ新通貨政策ヲ論ズ」(百餘頁)トシ、「金融ノ原理」ノ續篇タル、「貨幣及ビ物價ノ原理」ノ附錄第一編ニ收メタノデアル。是ニ於テカ、學士ガ懸念セラレタ、說明ノ不足トイフ非難ハ、予ニ於テ當ラザルモノデアラヲバナラナイ。

四

次ニ「精巧ナル仕掛ケヲ用ヰテ」ナル、概念的ナ言ヒ表ハシ方ヲセルコト、justify セラルベキノミナラズ、其ノ adequate ナルヲ主張シ得ルノ、根據ヲ有スル。同節ニ於テ、バーカー氏ガ金爲替本位國トシテ其ノ幣制ヲ論ジタノハ單リ印度ノミナラズ、フィリッピンヲモ略說シ墺洪國ヲスラ此ノ本位トシテ論ジタノデアッタ。尤モ予自ラハ金爲替本位タルノ一條件トシテ、ニコルソン教授ノ力

說セル、金爲替資金ガ存置セラルベキ地域 locale ガ特定セラレテアルベキヲ數フベキコトヲ、信ズルモノデアルカラ、本邦及ビ墺洪國ヲ金爲替本位國ニ配セル、キーンス及ビウィザース兩氏ノ見解ニ同意スル能ハズシテ、同節中ニモ其ノ旨ヲ斷ツテオイタノデアツタ。ソレハサテ措キ、觀ジ來レバ、フィリッピンノ locale ハ紐育ニシテ、其ノ國際支拂ハ New York bills ニテ行ハル、ニアラズヤ又タ墺洪國ハ純白ナル金爲替國デハナク、特定ノ locale ヲ有セズ、唯ダ對外支拂ノ便宜上、其ノ中央銀行ガ有スル Devisen ノ大部分ハ、sterling bills カラ成立スルケレドモ、仍ホ其ノ外ニ、mark bills モ、將タ又タ franc bills モアルニハアラズヤ。已ニ然カリ。加之、茲ニ係爭トナレル、概念的記述ハ、其ノ次節「金爲替本位ト跛行本位」（一四〇——一四四頁）ニ至タリ、始メテ抽象的ニ立セラレタルモノニ係カル。茲ニ到ツテ、然カリ實ニ茲ニ至ツテ始メテ、類似ノ箇別性ヲ超越シ、捨象シ、抽象シテ「全體性」ヲ表出セントスルニ方タリテ、徐ロニ「精巧ナル仕掛ケヲ用ヰテ爲替關係ヲ調節スル」モノト稱スルモ、何ンノ不可カ、是レアラン。若シ之ヲシモ不可ナリトセバ、箇々ノ現象カラ法則ヲ演繹シ來タル、ソモ何ヅレノ日ヲ俟ツテ、之ヲ爲シ遂ゲ得ヤウゾ。若シ學士ニシテ、然ラバ「金爲替本位國ハ」ト云フベクシテ、「印度ハ」トハ言フベカラザルニアラズヤト、反問シ來タルコトモアラバ、予ハ卽座ニ、キーンス氏ニ倣ヒ、「印度ハ金爲替本位制ノ權輿ニハアラズトハ云ヘ、完全ナル形態ニ於テ斯制ヲ施行シタル最初ノ國」タルノミナラズ、世界多數ノ同制施行國中ノ最重要ナルコトヲ答フレバ、ソレデ足ルト思フ。蓋シ人ノ手又ハ足ヲ指シテ、甲又ハ乙ト呼ブノ不當ナルハ勿論ナルニ反シ、顏ヲ見テ甲乙ト指示スルコトハ、大過ナキニ因ル。ヂェンクスヤ、コナントヤ、

將タ文賓爲ナラナクモ、世人ハ印度ト云ヘバ斯制ヲ聯想シ、金爲替本位トシ云ヘバ印度ヲ想起スルデアラウ。

五

學士ハ又タ予ノ辯明中ニ、「第二區別點タル、金貨流通高ノ多寡ナル點」ヲ、寧ロ「從屬的差異ヲ以テ目スベキモノ」ナリト云ヘルコトヲ、全然不贊成ナリト論ゼラレ、「金貨流通高ノ少ナイト云フ事實ハ兩制度ヲ通ジテノ前提條件デアルカラデアル」ト論證サレテキル。處ガ其ノ論證ハ不徹底タルノミナラズ、歷史ノ明徵スル所トモ矛盾シテキル。跛行本位制ノ下ニ於テハ理論上金貨流通ノ饒多タリ得ルノミデナク、事實上豐富デアリ、且ツ國內ニ於ケル金貨保有高ニ至ツテハ、事實上太ダ巨大ナルモノガアル。サラバ予ガ、之レヲ以テ「從屬的差異」ト看ルヲ妨ゲザルコトヲ言ヒシハ、實ニ金爲替ノ本質タル、キーンス氏ガ高揚スルガ如ク、金貨拂爲替ヲ交付スルニヨリテ、國際支拂上金本位ノ施行ト同一效果ヲ擧ゲ得ルノ所ニ求ムベキモノデアリ、——リカードー及ビマーシャル教授モ此ノ點ヲ力說セリシコトハ、キーンス氏ノ說ク所デ判カル。拙譯著「貨幣及物價ノ原理」一八八——九頁參照——金貨流通高ノ稀少ナル事實ハ、右ノ制度ヲ施行スルニヨリテ當然ニ惹起セラルベキ一屬性ニ外ナラズシテ、前者ヲ reality トスルナラ、後者ハ單ナル appearance 又ハ consequence ニ過ギヌト云フ、意味ニ於テヾアル。此ノ外ニハ、意味ハアリ得ナイ。

先ヅ佛蘭西ノ金貨流通ノ多寡ヲ決スル原因ヲ尋ヌルナラバ、デシャルメノ說クガヤウニ、同國銀行劵ノ最低額面ハ可ナリ高イガ爲メニ、金貨ハ本位銀貨ト共ニ、市場ヲ流通スルノミナラズ、平時

世人ハ多少ノ打歩ヲ拂フコトヲ覺悟スルナラバ、隨時其ノ中央銀行カラ金貨ヲ引出シ得ルノデアル且ツ自由鑄造ノ施行ハ、自カラ流通高ヲ涵養スル源泉トナルデアラウ。反之、印度幣制ノ運用ニアツテハ、英國ニ於ケル council drafts ノ賣出シト、印度ニ於ケル sterling drafts ノ賣渡シトガ、滯リナク巧妙ニ行ハレル事ヲダニ、豫定スルナラ、印度ニ對スル金貨輸入ハ、不必要ニ終ラヲバナラズ而シテ之ガ、碩學リカードーガ理想トシタ境ニ吻合スルモノデアラウ。果シテ然ラバ印度內ノ金貨流通高ハ、勢ヒ少ナカラザルヲ得ナイ。而カモ此ノ狀態ノ下ニ於テ仍ホ、流通高ガ增殖スルコトアリトスルナラバ、ソハ(イ)爲替相場上、內國通貨ガ騰貴シテ、金輸入點以上ニ達スル場合ナルカ、又ハ(ロ)印度民衆ガ金貨授受ヲ熱愛スルノ餘リ、爲替上ノ利害ヲ考慮ノ外ニヲイテ金貨ヲ輸入スル場合ナルカノ一タラザルヲ得ナイ。然カシ(イ)ハ、キーンス氏ガ度々劒橋「エコノミック、ヂアーナル」誌上デ誇稱シヲレルガヤウニ、這般ノ戰亂裡ニ於テスラ、發生セズ、又タ(ロ)ニ至ツテハ、印度土民間ニモ、漸次、Midas ヤ、將タ Pallas Athene ヲ悅ブ底ノ思潮ガ、廢タレテ行キツヽアル、今日ニアリテヤ、カノ歷史的ニ金貨流通ガ俗ヲ爲シタ、一地域以外ニハ、感染スルコトガナイデアラウ。

次ニ學士ガ論ズルガ如クンバ、（本誌五月號一七四頁七行以下）佛蘭西ニ於テ跛行本位ヲ施行スルノハ、金貨流通高ノ少ナイ爲メデアル、トイフコトニナル。果シテ之ガ、佛國ニ於ケル跛行本位施行ノ裡ニ橫ハル史的根據デアルカ。否ナ、歷史ノ明徵スル所ハ、當時ノ佛蘭西ハ、デシャルメノ說ケルガ如クニ、本位銀貨ノ多血症ニ苦シメラレタモノデアリ、此ノ尨大ナル本位銀貨及ビ銀地金ヲ

處分スルコトハ、當時銀塊相場ガ繼續的低落ノ繼續的趨勢ヲ示セリシ爲メ、重大ナル國庫損失ヲ釀成スルヲ免レザリシガ故ニ、コナント氏ノ論ズルガヤウニ、無意識的ニ跛行本位岸ニ漂着シタモノト看ルベキデハアルマイカ。之ガ證據ニハ、佛蘭西銀行ノ金貨金塊所有高ハ、戰前ニ於テ約拾六億六千萬圓ヲ算シ、米國大藏省ヲ除ケバ、實ニ世界第二ノ高位ヲ占メテキタデハナイカ。學士ニシテ又タ若シ、ソハ中央銀行ノ金貨保有高ニシテ、寧ロ印度政府ガ倫敦ニ存置スル、gold-exchange fund 若クハ "ear-marked" paper currency chest ノ如キモノデ、金貨流通高 active circulation of gold デハナイト、反問スルコトモアランカ。予ハ卽座ニ佛蘭西ニハ、現ニ約拾貳億圓ノ金貨ガ、一般市場ヲ流通シテヲリ、アルグラーヴ氏ヲシテ「ワガ二十法金貨ヲシテ敵國ノ募債ヲ助成セシムルコト勿レ」ト絕叫セシムルニ至レリシ、其ノ盛ンナリシ金貨流通狀態ヲ目睹スルノ、事實ヲ以テ答ヘルコトニセウ。(see Keynes, The Prospects of Money, November 1914, Economic Journal, December, 1914; Conant, Currency Policy and the European War, Journal of Pol. Eco, Oct, 1914; Decharme, Les petites coupures des billets.) 是レ豈ニ啻ニ、學士ノ謂ヘル、「佛蘭西ニ於ケル金貨流通高ハ、其ノ割合ニ於テ或ハ印度ノソレヨリモ多イデアラウ」ドコロノ談デアラウカ。

第三ニ、「鑄造ノ有無」トイフコトモ、學士ガ同上頁ニ於テ細註セラレタ如キノ意味デナク、寧ロ自由鑄造認メラルレバ、直觀上、金貨流通ハ勢ヒ增加スベキコトガ推論シ、得ラルベキニ反シ、鑄造所ナク自由鑄造認メラレザランカ、勢ヒ金貨流通ハ少ナカラザルヲ得ナイトイフ意味ニ於テ、「流通高ノ多寡」ト、爾カク殊別スルニモ當ラザルコトヲ、論ジタモノニ外ナラナイ。

終リニ、予ノ參考ニナラウトイフ意味ニ於テ、示サレタコナント氏所說ノ一節ハ、箇所コソ異ナ

レ、一二頁丈ケコソ前後スレ、ワガ拙譯著一四二頁ニ於テ、金爲替本位ト跛行本位トハ、或程度マデ、同視セラルベキ特徵ヲ有スルト論ジテ、引用シタ同氏ノ一節ト、全然同意義ノモノタルニ過ギナイ。卽チ予ガ引用シタ箇所ハ、Conant, Principles of Money and Banking, Vol. I, pp. 279, 403. デアル。コノ點ニモ、予ハ前キニ强調セル學的論爭ノ要諦ヲ顧ミテ、一種ノ皮肉ヲ覺ヘズンバナカツタ

六

以上ヲ以テ、海老原學士ノ叮嚀懇篤ナル指摘ヲ跡付ケ、之ヲ辯明スルノ辭ニ、筆ヲ擱クコトニセウ、然ルニコノ自家所說ヲ今マ顧ミルナラバ、其ノ態度或ハ餘リニ自我 ego ニ偏シタ憾ミナキヲ得ナイ。鑑ミテハ、玆ニ則チ非我 non-ego ノ色合ヒヲ表章スベキ、數言ヲ綴ルノヲ禮トスルデアラウ

抑モ「金融ノ原理」ハ、一般金融ノ大綱ヲ說明セルモノデアリ、謂ハユル貨幣論ヲ取扱ツタモノデハナイ。サレババーカー氏又ハウィイザース一流ノ範疇ニ從ツテ、外國爲替ノ實際ヲ略說スルニ止メタノデ、其レ丈ケニテハ「未ダ徹底セザル所」アルハ、寧ロ同書本來ノ目的上當然デアル。是ニ於テカ、之ヲ徹底セシムルモノトシテハ、右ノ續篇「貨幣及物價ノ原理」アリ、其ノ附錄第一ニハ「印度幣制運用ヲ緣トシテ列國幣制上ノ新通貨政策ヲ論ズ」ル、ナル一篇ヲ、配セシメタノデアツタ。右ノ一篇ハ、當年、孟買ナル同學ノ先輩西山勉氏カラ、其ノ稀覯ノ名著タルコトヲ强調セラレタル、J. M. Keynes, Indian Currency and Finance, pp. 1—100. ヲ全譯シテ、四章トナシ、之ニ補註スルノニ、私見竝ニ Final Report of the Royal Commission on Indian Finance and Currency, London, 1914; Wen Pin Wei, The Currency Problem in China. New York. 1914; Doraiswami, Indian Finance, Currency and Banking. Madrass. 94. 其ノ他ノ金融論策ニ於ケル所論ヲ以テシタルモノデアル。然ラバ則チ、金爲替本位ト跛行本位トノ類似性ヲ承認スルニ於テハ、玆ニ前者ヲ主トシテ觀念シ、之ガ特質ヲ尋ヌルニ、右キーンス氏ノ所說ヲ以テスルノハ、予ノ現在ノ思想傾向ノ命ズル所デアラザルヲ得ナイ。キーンスハ、其ノ特質ヲ三ツニ分ケテ、左ノ如クニ言ツテ井ル。（拙譯著、一五八頁）

一、實在ノ交換要具ガ、其ノ國際通貨トハ、全ク別異ノ內國通貨カラ成立スルコト。

二、政府ガ、國際支拂要具ヲ要求セラル、ヤ、國內ニ於テ之ト內國通貨ヲ引替フルヨリモ寧ロ一層、外國金融中心地（例ヘバ倫敦）ニ於テ、國際通貨（金貨）ニテ支拂ハルベキ爲替手形ヲ以テスベキヲ、欲スルコト。

三、斯ク要求次第、一方、國際通貨ト引替ニ內國通貨ヲ供給シ、他方、內國通貨ヲ國際通貨ニ兌換スル責任ヲ有スル政府ハ、

是等ノ二目的ノ各々ニ對シテ、二種ノ準備金ヲ內外ニ存置スルコト。卽チ是レデアルト。

此ノ特質ヲ咀嚼スルナラ、兩本位制度ノ理論上ノ區別ハ、春日ニ向フ雪ノ如クニ、自ヅカラ釋ケルデアラウ。

七

夫レ海老原學士ハ人モ知ル、明敏博覽ノ人、殊ニ此ノ種ノ問題ニ就テハ、讀書研究ノ仕上ゲヲ施スノニ、身ヲ印度金融ノ中心ニヲキ、親シク同國金融運用ニ膺タラルヽノ强味ヲ以テスル、之ヲシモ鬼ニ金棒ト云ハズシテ、將タ何ヲカイハフカ。卒然トシテ學士ノ稿ヲ讀ム、自ラガ辯難ノ矢面ニ立テルノ意識、毫モ起ルコトナク、吾ガ心卽チ白紙 tabula rasa トナツテ、唯ダ堂々タル理論ノ展開ノミガ印象サレタノハ、素ト其ノ所ト謂フベキデアル。唯ダ學士ノ爲メニ憾ミ、名玉ニ微瑕ヲ見タル所以ノモノハ、學士ガ學的論戰ノ準備ニ、欠缺アリシガ爲メニ外ナラナイ。サレバ其ノ積極的ノ所論ニ接シテハ、啓蒙スル所尠ナカラズ、深ク學恩ヲ謝スル所デアツタ。實ニ金爲替本位ノ運用中ニ含マル、潛在的ノ經濟的意義ハ、予ガ今後數年ノ學窓ニ映ズル大キナ謎タラザルヲ得ナイノデ、學士ト共ニ、之ガ研究ノ大道ニ進ムノハ、予ノ最モ欣ブ所デアル、ヒトリ學士ノ異見ガ若シ仍ホアリ、其ノ再ビ提唱サレルコトアリトスルモ、其日ハ、會マ予ガ笈ヲ洋上ニノセテ留學ノ途ニ上ボルノ時デアルノデ、其ノ論爭モ、之ヲ三年ノアトニ期セザルヲ得ザルヲ遺憾トスル。（大正五年五月五日）